

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・走向・傾斜をN27E43Wに変更 (No.39)

【理由】走向・傾斜の判読作業時に誤りが生じた

・条線方向を72Rに変更 (No.40)

【理由】走向・傾斜の見直し (No.39) に伴う変更

・変位センスを逆断層センスに変更 (No.41)

【理由】条線方向の見直し (No.40) に伴う変更

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

a 走向・傾斜の記載を「N27E43W」に変更 (No.39)

b 条線方向の記載を「72R」に変更 (No.40)

c 変位センスを「逆 -」、「逆断層」に変更 (No.41)

d 見直し後の走向・傾斜、条線方向に基づく図に変更 (No.39,40)

H27-B-1 深度52.72~52.81m 最新活動面の走向・傾斜 (No.39) を変更、それに伴い条線方向 (No.40)、変位センス (No.41) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-189頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

15.非モデル化破砕帯
性状一覧表(17/19)

断面番号	深度(m)	主断層下位断層(m)	走向	傾斜	断層幅(m)	最新活動面		変位センス	備考	写真					
						水平	垂直								
①	48.17	48.22	N47E	45W	3.0	有	有	有	1.5	無	30R	正	右	非モデル	49
②	52.72	52.81	N27E	43W	7.2	有	無	無	-	-	72R	逆	-	非モデル	52
③	53.17	53.22	N27E	64W	4.0	有	有	有	0.2	無	90R	正	-	非モデル	53
④	58.82	58.85	N20E	75W	2.5	有	有	有	0.7	有	80R	正	-	D-1	59
⑤	69.70	69.73	N25E	82E	2.4	無	無	無	-	-	20L	-	右	非モデル	69
⑥	74.56	74.59	N15E	85W	10.7	有	有	有	-	-	54R	正	左	非モデル	74
⑦	75.57	76.00	N24E	87W	19.2	-	-	-	-	-	90R	逆	-	非モデル	75
⑧	78.72	78.87	N17E	71E	13.1	有	有	有	-	-	30L	正	右	非モデル	78
⑨	113.31	113.62	N27E	69E	8.3	有	有	有	-	-	30L	正	右	非モデル	113

(断層岩区分の総合評価)

凡例
 ← → : 最新活動面
 ← → : 破砕帯
 ← → : 断層ガウジ
 ○ : 粘土の鉄皮物が認められる箇所
 *1: 直読
 *2: 読取

【破砕帯】
 粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
 固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。
 【平滑さ】
 平 : 最新活動面が直線的なもの
 非平滑 : 最新活動面が湾曲するもの

参考2-189

断面番号	深度(m)	主断層下位断層(m)	走向	傾斜	断層幅(m)	最新活動面		変位センス	備考	写真					
						水平	垂直								
①	48.17	48.22	N27E43W	45W	3.0	有	有	有	1.5	無	30R	正	右	非モデル	49
②	52.72	52.81	N27E	43W	7.2	有	無	無	-	-	72R	逆	-	非モデル	52
③	53.17	53.22	N27E	64W	4.0	有	有	有	0.2	無	90R	正	-	非モデル	53
④	58.82	58.85	N20E	75W	2.5	有	有	有	0.7	有	80R	正	-	D-1	59
⑤	69.70	69.73	N25E	82E	2.4	無	無	無	-	-	20L	-	右	非モデル	69
⑥	74.56	74.59	N15E	85W	10.7	有	有	有	-	-	54R	正	左	非モデル	74

(断層岩区分の総合評価)

※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
 -(上記以外): データを取得していない箇所

凡例
 ← → : 最新活動面
 ← → : 破砕帯
 ← → : 断層ガウジ
 ○ : 粘土の鉄皮物が認められる箇所
 *1: 直読
 *2: 読取

H27-B-1 深度52.72~52.81m 最新活動面の走向・傾斜 (No.39) を変更、それに伴い条線方向 (No.40)、変位センス (No.41) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料1 薄片観察結果

参考1-235頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

No.39 No.40
(走向・傾斜 : N15°E82°E、
レイク角 : 10° 北傾斜
に基づく条線観察結果)

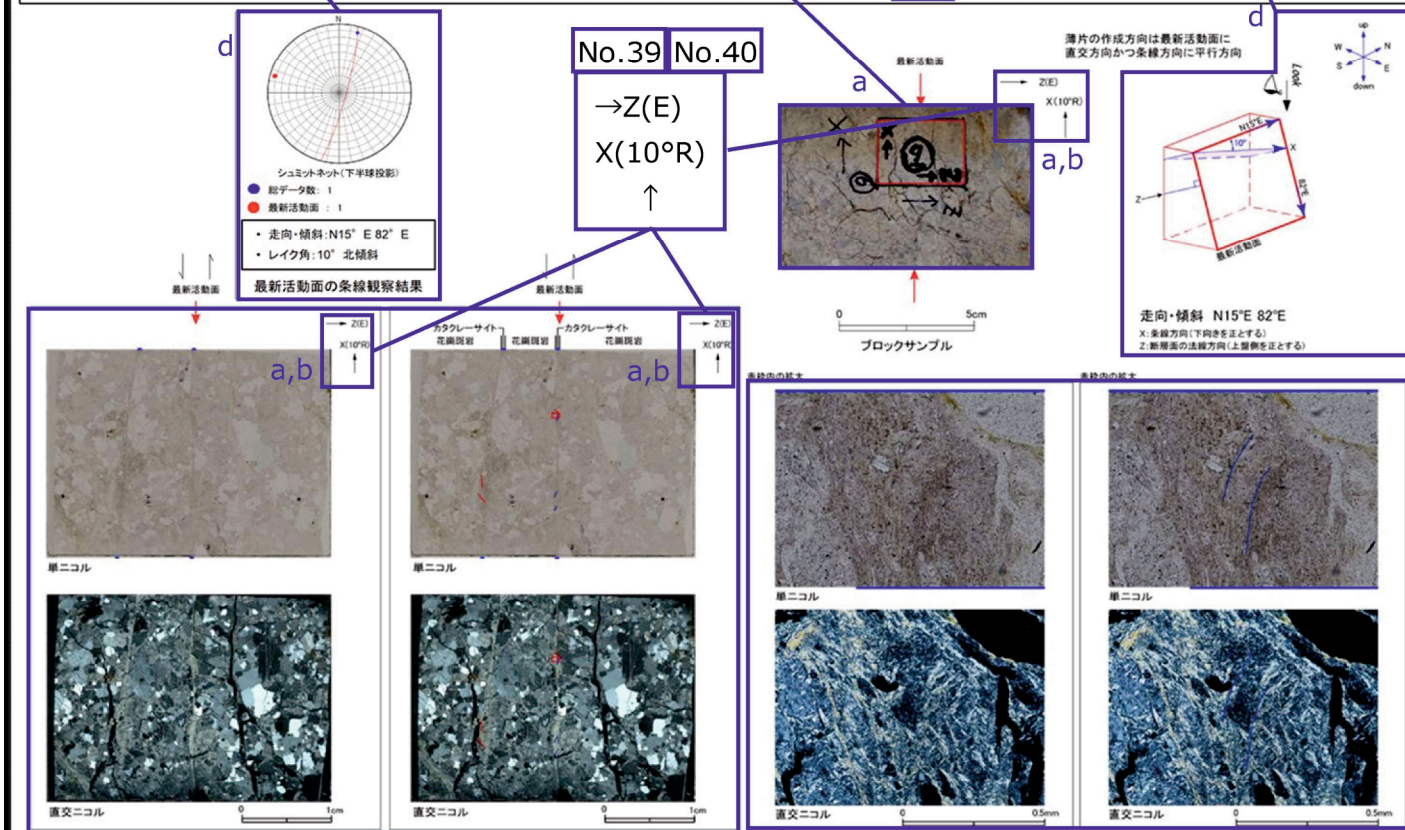
No.39 No.40
(ブロックサンプル写真)

No.41
左ずれ

No.39 No.40
(走向・傾斜 : N15°E82°E、
レイク角 : 10° 北傾斜
に基づく模式図)

No.40 デル化破碎部 薄片試料観察 (H27-B-1 深度52.81m)

H27-B-1のボーリングコア(深度52.81m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。



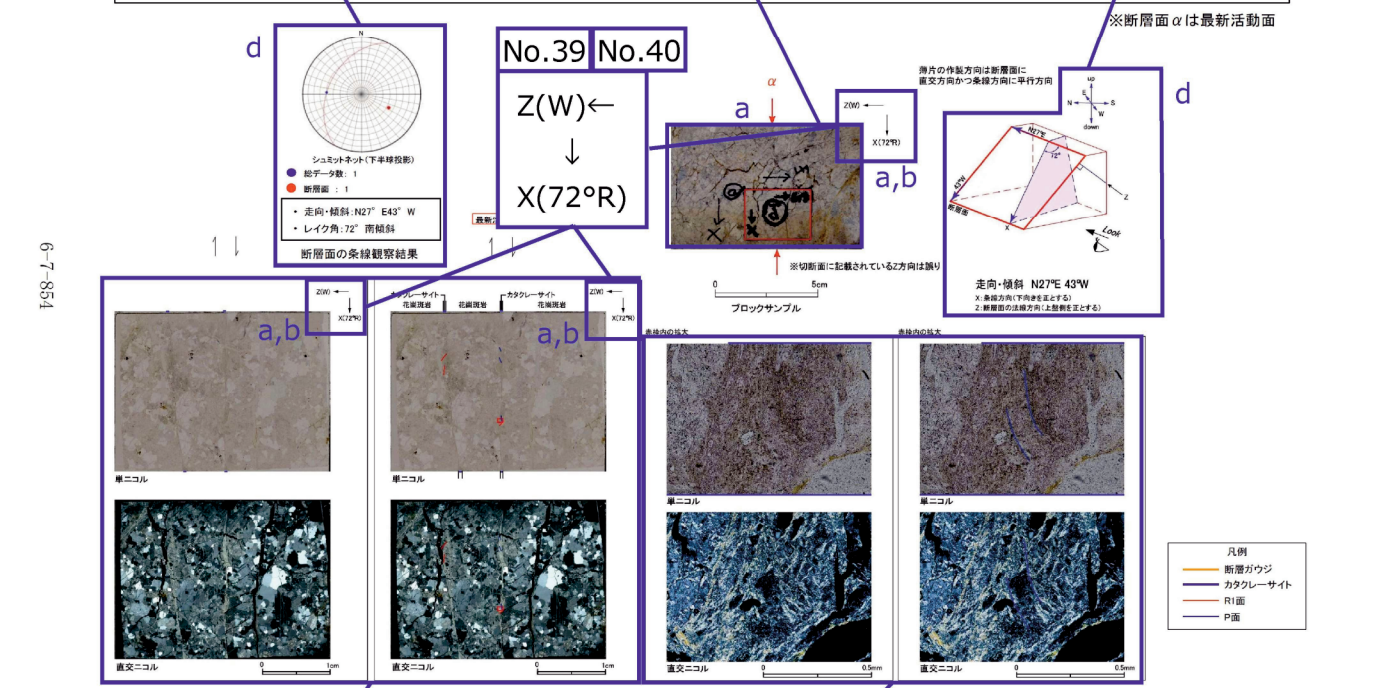
No.39 No.40
(ブロックサンプル写真を上下反転)

No.39 No.40
(走向・傾斜 : N27°E43°W、
レイク角 : 72° 南傾斜
に基づく条線観察結果)

No.41
逆断層

No.39 No.40
(走向・傾斜 : N27°E43°W、
レイク角 : 72° 南傾斜
に基づく模式図)

H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、逆断層成分が卓越する。
最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
> (カタクレーサイト)基質を構成する粘土鉱物は少ない。
> (カタクレーサイト)断層面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
> (カタクレーサイト)角はつた岩片が多い。
> (カタクレーサイト)ジグザグ状の角礫群が認められる。
> 岩片は少ない。



No.39 No.40
(薄片試料写真を上下反転)

No.39 No.40
(薄片試料写真を上下反転)

参考1-235